

あ、

「CEの未来を創る、  
すべての人の笑顔を創る」

令和8年 年頭所感  
参議院議員 釜 范 敏

2026年 年頭所感  
理事長 肥田 泰幸

万博に見る日本人体質  
理事 三井友成



社会の支え合いを支える  
技術者としての臨床工学技士  
前衆議院議員  
川崎医療福祉大学 医療福祉マネジメント学部  
医療データサイエンス学科 特任教授  
橋本 岳  
病院の赤字と将来の担い手不足  
～医療をインフラとして再定義する時～  
副理事長 小林剛志



# 2026年 年頭所感

理事長 肥田 泰幸



新年あけましておめでとうござります。2026年が皆さまにとって健やかで実り多い一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

さて昨年は、医療現場でも社会全体でも「変化のスピードが一段と上がったな」と感じる一年でした。AIやデジタル技術は私たちの仕事の隅々に入り込み、医療機器の管理から教育、在宅医療、情報セキュリティまで、臨床工学技士の活躍の場は確実に広がっています。一方で人口減少や働き手不足は避けられず、医師・看護師とのタスクシフト／シェア、医療DX、在宅医療の体制づくりなど、私たちが関わる領域はさらに重要性を増しています。

つまり今は、「臨床工学技士がどれだけ力を発揮できるか」「医療の未来がどれだけ前に進むか」に直結する時代と言つても過言で

はありません。これは大きなチャンスであり、同時に大きな責任であります。

2025年は、多くの皆さまが研修・調査・教育・政策活動などに積極的に参加してくれたり、組織としての勢いが確実に増した一年でした。本当にありがとうございました。各地で新しい取り組み

が生まれ、若い世代もベテランも関係なく、横のつながりが強くなってきてることを強く実感しています。しかし、まだまだ十分

とは言えません。私たちが抱える課題は、組織の数名だけでは到底解決できませんし、現場のリアルを知る臨床工学技士一人ひとりの声こそが、これから医療政策や教育改革の大きな力になります。

だからこそ本年は、これまで以上に「広く、たくさんの皆さまの力を貸していただきたい」と強く思っています。イベントに参加す

る、意見を届ける、調査に協力する、同僚に声をかける、SNSで情報を広める。小さな一歩が、最終的には大きな変化を生みます。

そして、どんな形であれ心を寄せ、仲間として一緒に動いてくださる「支援の輪」こそ、私たちの活動を前に進める最大の原動力です。

2026年は、「一部の人が頑張る年」ではなく、「みんなで一緒に進む年」にしたいと考えています。大きな変化の渦中にいる今こそ、私たち自身が未来をつくる側に回るチャンスです。今年もどうか、これまで以上のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

皆さまにとってこの一年が、挑戦と成長に満ちた素晴らしい年となりますように。

本年もどうぞよろしくお願いい

## 「CEの未来を創る、すべての人の笑顔を創る」



# 臨床工学技士を支援する議員連盟 開催報告

日 時 2025年11月20日

8時～9時

場 所 参議院議員会館

参加者 衆議院16名、

参議院16名の国会議員

加藤勝信会長、野田毅名

誉会長、自見はなこ事務

局長、安藤たかお議員、

磯崎仁彦議員、今枝宗一

郎議員、大家敏志議員、

小川克巳議員、鬼木誠議

員、小野田紀美議員、工

藤彰三議員、小林孝一郎

議員、こやり隆史議員、

世耕弘成議員、田畠裕明

議員、富岡勉議員、中西

健治議員、中西祐介議員、

西田英範議員、長谷川淳

二議員、福岡資磨議員、

福山守議員、船橋利実議

員、古川俊治議員、松本

尚議員、山下貴司議員

（五十音順、代理出席含）

厚生労働省・文部科学省  
から計8名、関係団体  
3名、臨床工学技士20名



厚生労働部会と日程が重なる  
中にもかかわらず、これほど多数  
の国会議員・関係者の皆さまにご  
臨席いただけことは、関係各位  
のご尽力の賜物であり、心より感  
謝申し上げます。また、釜范さと  
し先生に対する我々の支援体制と  
結果より、日本医師会副会長の重  
松先生にもご参加いただけたこと  
は、大変心強い出来事でございま  
した。（画像参照）

今回の議員連盟では、最終的  
に決議文が採択され、従来よりも  
一歩踏み込んだ形となつたことを  
ご報告申し上げます。会の中でも  
話題となりましたが、こうした成  
果は、タスクシフトシェアや告示  
研修への積極的なご参加など、真  
摯に取り組んでくださった会員一  
人ひとりの誠意の結晶であり、改  
めて深く御礼申し上げます。

また、得られた成果の評価と

して、給与への反映にまで踏み込  
みます。病院経営が厳しさを増す  
中につつても、30代を中心とする  
臨床工学技士が、夢と希望をもつ  
て安心して業務に向き合える環境  
づくりを私たちは引き続き進めて  
まいります。そのためには、これ  
まで以上に一丸となつた支援体制  
が不可欠です。本日の成果を大き  
な力として捉え、今後とも変わら  
ぬご理解とご協力を賜りますよ  
う、心よりお願い申し上げます。



議連総会当日の様子①



議連総会当日の様子②

# 令和8年 年頭所感

## 参議院議員 釜范 敏

明けましておめでとうございます。

肥田泰幸理事長様はじめ日本臨床工学技士連盟の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

2025年5月16日に大阪で開催されました「日本臨床工学技士組織強化情報交換会」におきまして、私の応援ソングが流れれる中、オリジナルで作成いただいた「私の似顔絵の旗」を振ってお迎えいただいた感激は、生涯忘ることのできない思い出となりました。また後援会活動として、約1,800名もの方にLINE登録を行つていただきました他、XやFacebook等SNSも駆使していただき、本当に力強い支援の輪を広げて頂きました。

昨年7月の参議院議員選挙では与党が過半数割れし、自民党の全国比例の得票数も前回から大きく減少するという極めて厳しい状況の中でしたが、皆様のご尽力によって、医療・社会保障関係候補者7名のうち、トップの17万4,434票余りを獲得することができました。

こうして皆様から国政に押し上げていただきましてからも、政局が不安定な時期が続きました。9月7日には石破総理大臣（当時）より退陣が表明され、10月4日に

10月21日の臨時国会において、憲政史上初の女性首相として高市早苗総裁が第104代内閣総理大臣として就任されました。

高市総裁は、就任後初の記者会見や9月24日の所信表明演説において、現在の医療機関等の窮状を踏まえ、経済対策最優先で取り組む方針を示されました。また診療報酬・介護報酬について、改定時期を待たずして経営改善や医療従事者の待遇改善につながる補助金を前倒しして措置し、効果を高めるとの考えも示しておられます。われわれ医療・介護業界の収入は公定価格で決められています。しかし、その決められた収入に対して、支出の方が大幅に増えてしまっている状況です。医療・介護が置かれた非常に厳しい経営状況は、日に日に悪化しており、長期的な視野に立つて適切な収支差をきちんと設定することが不可欠です。

また、賃上げが進む他の業種への人材流出も進んでしまっており、処遇改善による人材確保は喫緊の課題です。こうした状況に対し、一刻も早く、改善する手立てを講じなければなりません。新政権下では日

本維新の会との連立政権という新しい枠組みになりますが、どのような枠組みであれ、国民にとつてなくてはならない医療・介護・福祉を持続可能なものにすることが私の責務です。

医療・介護・福祉は「なくしてはならない社会基盤」であり、医療機関や介護施設がないところに人が住むことはできません。医療機関や介護施設が突然倒れてしまふような事態は絶対に避けなければなりません。

これから通常国会が開催されます。これまでの遅れを取り戻し、物価高・賃金上昇対応を実現するために、全体の動きを注視しながら適切なタイミングで、しっかりと意見を述べてまいります。本年の干支は、「午」です。力強く、まっすぐ前へ進む馬の姿は、「情熱」や「前向きなエネルギー」の象徴とされています。今回の選挙において皆様から託していただきました一票一票の重みとその責任を胸に刻み、私も「馬車馬のように」を目指して、エネルギー・シユに活動する一年にしてまいる所存です。

新しい年が日本臨床工学技士連盟の皆様、お一人お一人にとつて充実した幸多き年となりますことをご祈念申し上げ、年頭に当たつてのご挨拶とさせていただきます。本年も引き続きのご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



選挙報告会の様子

## 第27回参議院議員通常選挙におけるご協力への御礼

この度の第27回参議院議員通常選挙におきまして、医師会公認で比例代表に立候補いたしました釜范敏（かまやちさとし）先生に対し、全国の会員の皆様から多大なご支援、ご協力を賜りましたこと、心より厚く御礼申し上げます。

皆様の熱意あるご協力のおかげをもちまして、釜范先生を無事、国政へと送り出すことができました。連盟といたしましても、推薦候補として釜范先生を全面的に支援し、選挙運動を展開してまいりましたが、今回の勝利は全国の会員各位の絶大なるご協力の賜物にほかなりず、ここに深く御礼申し上げます。



選挙報告会の様子

# 社会の支え合いを 支える技術者としての 臨床工学技士



前衆議院議員

川崎医療福祉大学 医療福祉マネジメント学部  
医療データサイエンス学科 特任教授

橋本 岳

日本の医療保険制度は、世界に誇るべき「国民皆保険」の制度です。日本に定住する人は、所得や仕事に関わらず、誰でも必要に応じてタイムリーかつ質の高い医療を受けることができます。この仕組みを支えてきたのは、臨床工学技士をはじめとする医療専門職の皆様の、日頃からの研鑽と努力のたまものです。

しかし今、この制度の持続可能性が問われる事態に立ち至っています。背景には、人口構造の変化があります。それこそ「国民皆保険」の結果として、日本は長寿社会を迎えています。本来これは祝うべきことです。他方で2000年初頭から懸念されていましたにも関わらず、少子化に歯止めをかけることができていません。そのため

こども世代のみならず現役世代人口の減少が継続的に進行しています。これらが相まって、高齢化率は2024年で29.3%

用する仕組みが求められます。医療機器の適正管理、人工呼吸・透析・補助循環などの高度な装置操作、さらには医療DXやAIの導入に向けた現場の改善など、臨床工学技士の活躍が期待される場は今後一層広がることででしょう。限られた資源を最大限に活かし、安全で持続可能な医療を実現する上で、皆様の専門性は欠かせないものと考えます。

なお医療保険制度を支えるもう一つの柱は「社会的連帯」の理念であると考えます。例えば高額療養費制度や難病医療、小児慢性特定疾病などの制度は、病氣に苦しむ患者やその家族の経済的負担を軽くする大切な仕組みです。冒頭記したように、そもそも国民皆保険制度自体が、所得や仕事に関わらず高い質の医療を受けることができる「支え合い」なのです。社会保障制度はしばしば現役世代が高齢者を支えていると捉えられがちですが、特に医療保険制度に関しては、本質的には老若男女を問わず傷病に苦しむ人を皆が支え合う仕組みです。こうした理念を忘れ、単なる「負担と給付の損得勘定」としてしか見ていないのではないかと思えるような議論がしばしば見受けられます。確かに後期高齢者医療制度における自己負担割合や保険料負担割合は低く設定されていますが、仮にこれを現役世代並みにした場合、本人が支払う資産などがあればよいですがさもなければ結局現役世代の家族への経済的負担としてのしかかるか、または治療を諦めるしかないと

いうことが現実のものとなりかねません。

結果として、さらに保険料を負担する意味が厳しく問われるという負の連鎖に陥ることまで考えられます。

先日、妻の自見はなこが体調を崩し川崎医科大学附属病院に入院しましたが、現場の方々に誠心誠意の治療をいただいて無事に快癒することができました。臨床工学技士の方々のお力もいただきました。家族とともに心から感謝申し上げる次第です。

であればこそ、私自身もこの貴重な「支え合い」の仕組みを守るために力を尽くしたいと改めて思った次第です。社会保障の目的是、すべての人が安心して生きていける社会を支えることです。その実現には、制度の設計と現場の実践が両輪で進むことが大切です。医療制度を語るとき、数字や財源の話だけでなく、現場で支える一人ひとりの専門職の誇りと使命感を忘れてはなりません。臨床工学技士の皆様の力が、日本の医療の未来を明るく照らすと信じています。



# 病院の赤字と将来の扱い手不足

## ～医療をインフラとして再定義する時～

副理事長 小林 剛志

高市内閣が発足し、政権の重点政策として「経済再生」や「地方活性化」が掲げられている。医療や介護分野への支援も取り上げられているが、一方でガソリン税の廃止論や消費税見直しが検討課題として浮上している。特に消費税に関しては、野党が国会で重要な案件として代表質問を重ねており、財政再建と国民負担の在り方をめぐる議論は激しさを増している。

しかし、仮に減税が進めば財源は確実に減少する。国の歳出の約3分の1を占める医療・社会保障費が真っ先に見直しの対象となるのは避けられず、長年続く医療費抑制の流れはむしろ強まるだろう。結果として、診療報酬の大幅な引き上げは望みにくく、病院経営の圧迫がさらに進むことになる。診療報酬が上がらなければ、支出の半分を占める人件費を削るしかなく、経営側はコストカットに踏み込まざるを得ない。その際に標的となりやすいのが、診療報酬を直接生まない臨

床工学科のような支援部門である。実際に、当院も赤字を抱え、増員は困難で欠員補充にも苦慮している。限られた人員で、透析・心カテーテル・手術・内視鏡・在宅酸素など多岐にわたる業務を担つており、現場の疲弊は深刻である。

一方、タスクシフトを積極的に進め、臨床工学科技士を有効に活用していき、施設も増えている。医師・看護師・薬剤師・臨床工学科技士が職種の壁を越えて連携し、効率的な診療体制を整えることで成果を上げている。病院経営の巧拙は、まさにこうした現場運用の柔軟性と先見性に表れる。

しかし、医療制度そのものが疲弊している現状では、個々の努力だけでは限界がある。慢性的な赤字、人材確保の困難、物価高騰と報酬据え置きによる三重苦の中で、現場の士気を維持することすら難しい。さらに、少子化の影響は医療人材の養成段階にも及んでおり、地方の専門学校や大学では定員割れが常態化し、医療職を志す若者

自体が減少している。これでは将来どころか、数年先の扱い手確保すら危うい。病院の赤字は単なる経営問題にとどまらない。扱い手を失えば、夜間救急や手術、透析、呼吸療法など、命を支える医療の継続が難しくなる。地域医療の縮小はやがて「静かな医療崩壊」として進行し、取り返しのつかない事態を招く。

では、どうすれば持続可能な医療を守ることができるのか。

第一に、医療従事者が安心して働く環境づくりが欠かせない。長時間労働や過重な責任に対し、十分な対価と支援を確保することが必要である。加えて、チーム医療を推進し、職種間で業務を分担・連携できる仕組みを整えることで、現場の負担を軽減できる。

第二に、デジタル技術の活用による業務効率化が求められる。AIによる診療支援や医療機器管理の自動化、遠隔モニタリングの導入は、限られた人員でも質の高い医療を維持する鍵となる。特に臨床工学科技士のように医療機器に精通した職種は、その中心的役割を担うことになる。

第三に、地域全体で医療人材を育てる仕組みづくりが必要である。高校生の段階から医療職の魅力を伝え、元で学び、地元で働く循環を形成する

ことが重要だ。また、育児や介護などで一時的に離職した医療従事者が復職しやすい制度や支援環境を整えることで、即戦力の確保にもつながる。

病院の赤字問題は、単なる経営課題ではなく、医療を担う「人々の未来」に直結する社会的課題である。支える「人」がいなければ、どれほど立派な建物や機器があつても医療は成り立たない。今こそ、病院経営と人材育成を一体として考え、持続可能な医療体制を築くことが求められている。

医療は道路や電力、通信と同様に、国民の命を支えるインフラである。医療従事者を守ることは、国を守ることに他ならない。政治も経営も、そして現場も——今こそ同じ方向を見据え、医療の再生に向けて具体的な一歩を踏み出すべき時である。



# 万博に見る日本人体質

理事 三井 友成

残っていることが分かる。

大阪・関西万博が近づくにつれ、ニュースでは建設の遅れや費用の増大が繰り返し報じられ、国際的な祭典であるはずの万博が、いつの間にか「間に合うか」「予算が足りない」といった国内の不安と批判の対象になっていた。一方、主催者側は、開催後半は満員になるから早く来るよう」と連呼していたが、始まつて見るとその通りで前半はガラガラで最終日は徹夜組まで出る大盛況となつた。日臨工の告示研修でも、もうすぐで終わりという段階では予約が取りにくく状況になつていて、この状況を見ると、万博というイベントを通して、日本人の持つ特有の体質が浮かび上がつてくるよう思つ。

日本人の几帳面さと慎重さが極端に作用した例と言えるだろう。

一方で、日本人の「調和を重んじる」性格もまた万博に表れている。万博は、世界各國がそれぞれの文化や技術を披露する場でありながら、日本の場合、「全体の調和」を何より優先しようとする。

会場デザインからパビリオンの配置に至るまで、統一感や秩序を大切にするのは日本らしい姿勢だ。しかしその裏には、異なる意見をぶつけ合いながら新しい価値を生み出すよりも、「波風を立てない」ことを優先する気質も見え隠れする。組織の意思決定が遅れ、責任の所在があいまいになるのも、この「協調の文化」と無縁ではない。

一方で、このような慎重さや調和志向には、災害や困難に直面した際に発揮される「粘り強さ」や「連帶意識」といった強みもある。たとえ準備段階で混乱があつても、本番を迎えるに現場が力を合わせ、きちんと仕上げてくるのが日本人の底力である。東日本大震災やコロナ禍の際にも見られたように、日本人は危機の中で秩序を保ち、互いを支え合う力を持つている。万博も最終的には、多くの人々の努力と協力によって成功へと導かれるに違いない。

つまり、万博は単なる国際博覧会ではなく、日本社会の縮図でもある。完璧も万博に色濃く表れている。来場者に快適に過ごしてもらうための配慮や安全対策、細やかなサービス精神は世界でも高く評価されている。しかし、このおもてなしの裏には、「相手の期待に応えなければならぬ」という過剰な義務感が潜むこともある。結果として、現場の負担が増し、準備が複雑化してしまう。万博のボランティア募集や運営体制の議論を見ると、「誰かが頑張つて何とかする」という日本の精神論が、今も根強く残つていて、日本社会特有の「前例主義」も大きな影を落としている。新しい発想よりも、「これまでうまくいった方法」を重視する傾向が、スピード感を損なつていて、これもまた、日本人がリスクを恐れ、失敗を極端に避ける国民性の表れである。

中四国理事補佐  
林 博之



## 新入役員の紹介

まず感じるのは、日本人の「完璧主義」と「慎重さ」である。もともと日本社会は品質に対する要求が高く、「不完全なもの」を出すくらいなら、期日を延ばしても完成度を高めよう」とする傾向が強い。これは製造業の現場では長所として働き、世界に誇る精密技術を支えてきた。しかし、国際的なイベントのように期限が絶対である場面では、この完璧主義が裏目に出る。計画段階で理想を追い求めすぎ、結果として遅れやコスト増に陥る。その意味で、万博の準備の混乱は、

また、日本人の「おもてなし精神」と「慎重さ」である。もともと日本社会は品質に対する要求が高く、「不完全なもの」を出すくらいなら、期日を延ばしても完成度を高めよう」とする傾向が強い。これは製造業の現場では長所として働き、世界に誇る精密技術を支えてきた。しかし、国際的なイベントのように期限が絶対である場面では、この完璧主義が裏目に出る。計画段階で理想を追い求めすぎ、結果として遅れやコスト増に陥る。その意味で、万博の準備の混乱は、

ではなく、日本社会の縮図でもある。完璧を求める真面目さ、調和を重んじる協調性、そして最後に帳尻を合わせる現場力。これらすべてが「日本人体質」として息づいている。その体質が時に足かせとなり、時に誇るべき強みとなる。

2025年の大阪・関西万博を通して、私たちは改めて「日本人体質」とは何かを問い合わせ直す機会を得ているのではないか。仲間と協力し合うことで実現できると信じています。微力ながら、技士の未来と連盟の発展のために尽力いたします。

## 事務局だより

連盟SNSカード配布  
スタート&  
LINEを活用した情報発信

日本臨床工学技士連盟（以下、連盟）の組織力強化に向けて組織部主導で、SNSカードの配布を開始しました。

登録者が増えれば増えるほど、連盟の影響力が大きく見えるといった仕組みです。

臨床工学技士以外の登録も可能ですので、積極的な登録と支援者の輪の拡大にご協力をお願い致します。



## 連盟SNSカード（表）



## 連盟SNSカード（裏）



## 会員情報の変更のお願い

転職や転勤などにより、会員情報に変更がありましたら、ホームページの「会員情報システム」よりお早めに修正をお願いいたします。そうすることで、最新の情報をスムーズにご確認いただけ、より充実した会員サービスをご利用いただけます。団体会員の方につきましては、所属の技士会へご連絡ください。



## おっさんの料理

## 鶏もも肉の南蛮漬け



## 作り方

塩胡椒した鶏もも肉に片栗粉を塗して揚げてから酢、砂糖、麵つゆで作った南蛮タレに漬けてパプリカ、にんじん、ごぼうをのせ冷蔵庫で冷やしたら出来上がり！



## 会費のお願い

皆様からの会費は、より良い活動を行うための貴重な財源です。会費のお支払いは、クレジットカード、コンビニ決済、銀行振り込みのいずれかをお選びいただけます。ご協力よろしくお願いいたします。  
お支払日につきましては、クレジットカードは毎年入会月に、コンビニ決済と銀行振り込みは毎年6月末を予定しております。ご協力よろしくお願いいたします。※団体会員の方は所属の都道府県技士会が代行徴収いたします。

## 連盟への参加のお願い

日本臨床工学技士連盟は、皆様の力によって支えられています。政治的な信条は問いません。選挙の際は、ご自身の考えに基づいて投票してください。連盟では、皆様の意見を反映させながら、より良い臨床工学技士の未来を目指して活動しています。ご意見やご質問は、ホームページの「お問い合わせ」からお気軽にご連絡ください。

また、連盟の活動にご興味をお持ちの方は、ぜひご参加ください。一緒に臨床工学技士の地位向上を目指しましょう！

HPはこちらから

